

第6章 医療安全管理室

組織横断的に医療安全対策を推進するため病院長直属の組織である医療安全管理室は、決定された方針に基づき病院全体の医療安全体制確保のため、室長を中心に専従医療安全管理者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者とともに、各部署と連携を図りながら安全な医療の提供のため取り組みを行っている。さらに、医療安全管理室は、医療安全管理委員会の下部組織にリスクマネージャー会議、輸血療法委員会、放射線安全委員会、医療安全看護部小委員会、院内救急検討会、呼吸サポートチーム会議と共に医療安全体制の整備・向上に取り組んだ。

1 主な活動内容

1) インシデント報告書の受付け、対応、集計

1ヶ月毎に集計し、医療安全管理委員会及びリスクマネージャー会議、看護管理会議等にて報告を行った。

令和2年度報告件数は2,116件で、事象件数は1,764件あった。

発生状況・レベル別割合を以下に示す。表内の矢印は前年度との比較をします。

発生内容別

指示・伝達に関する項目	1.8% ↓
薬剤に関する項目	26.0% ↑
輸血に関する項目	0.6% ↓
給食・栄養に関する項目	2.2% ↑
処置・治療に関する項目	5.7% ↓
医療用具（機器）ドレーン・チューブに関する項目	26.2% ↓
検査に関する項目	6.4% ↑
療養上の場面に関する項目	22.4% ↑
その他の場面に関する項目	8.7% ↑

レベル別割合

レベル0	19.7% ↑
レベル1	52.8% ↓
レベル2	18.7% ↓
レベル3a	7.7% ↑
レベル3b	0.8% ↑
レベル4a	0.0%
レベル4b	0.0%
レベル5	0.11% ↑

2) 医療安全対策マニュアルの改訂・追加

令和2年

作成 5月13日 医療安全管理指針 第2章 （安全管理者の権限）

改訂 5月13日 医療安全管理指針 第2章 （委員会の配置） 2

医療安全管理委員会要綱 構成 第2条4. 副病院長

医療安全管理委員会要綱 構成 第2条6. 外科系診療科部長一人

医療安全管理委員会要綱 構成 第2条7. 内科系診療科部長一人

改訂 10月14日 MR実施のための麻酔科医による鎮静管理運用について

MR検査 麻酔科医による鎮静管理手術申し込み手順

令和3年

改訂 1月13日 インシデント報告から対策までの手順

看護における事故防止対策 16 チューブトラブル（改訂・作成）

CVC ガイドライン

改訂 3月 1日 患者誤認防止策 第1章 患者確認の基本

患者認証マニュアル：電子カルテシステム更新

インシデント報告システム SafeMaster による報告方法：電子カルテシステム更新

改訂 3月 15日 「コメディカルスタッフによる喀痰吸引」ガイドライン

3) 委員会・会議運営

医療安全管理委員会 毎月1回 合計12回開催した。

リスクマネジャー会議 毎月1回 合計12回開催した。

医療安全検討小委員会 毎週1回 合計39回開催した。

全死亡事例確認会（定期開催） 合計11回開催した。

医療事故調査委員会（外部委員）の開催・運営をした。

4) 医療安全研修会

研修は、延べ74回開催し、e-ラーニング研修と並行して実施した。（表1）

研修内容と受講状況

①講演内容：「誤接続防止コネクターの導入と適正な使用方法」ISO 導入

講師：(株) トップ、(株) 日本コビディエン

集合研修後、随注を実施する部署（4部署：9B・10A・10B・11B）へは伝達講習実施

研修受講は152名となった。

②e-ラーニング研修

研修テーマ

・「安全のための改善活動～私たちができる医療安全～」

・「現場でできるニューマンエラー対策」

e-ラーニングを受講後にテストを実施し、提出する方法とした。

研修受講は741名となった。

③今年度もチーム医療の質向上を目指し、チームトレーニング「TeamSTEPPS：Team

Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety」を継続して実施した。

COVID 感染防止対策を実施しながら、新入職員へは入職時に基礎編を1回（71名受講）実施した。さらに、COVID 感染防止対策のため「部署編」と題し、部署に出向き研修を実施した。研修回数は65回、研修受講は696名となった。

同じ部署のメンバーでのチームであったためか、ゲームの結果も高いものであった。

チーム STEPPS 研修の受講数は、延べ4876人となっている。

令和2年度の医療安全研修受講率は、99.0%と前年度より0.8ポイント低下した。各部門での受講率は100%であったが、医師受講率は95.7%であった。

5) 医薬品（経口薬）の導入時の安全確認

対象診療科（神経科・総合診療科）の入院病棟での学習会開催と保管方法の確認を実施した。

11A・12A病棟：個人払い出し

救急・4B（HCU）：配置薬対応

配置方法の決定（6か月間試行し、評価する）

6) 指差し呼称他者評価

全職種に対して、指差し呼称他者評価を年2回（6月、10月）に実施した。評価は医療者間評価、患者・家族評価の2側面から実施した。結果については、会議にて報告し、年間のまとめを冊子配布した。

7) 医療安全推進月間

正面玄関2階の展示スペースに、部署・担当チーム毎に「3WORD」の撮影を行い、指差し呼称他者評価の結果と共に掲示した。結果については、会議にて報告し、年間のまとめを冊子配布した。

8) インシデント報告等改善への取り組み

- ①前年度に発生した事象について、各部署で対策後の経過、防止策の実施状況について、病院全体で周知・確認のため会議で報告体制を整備し、継続実施している。
- ②「食札」「人工乳」認証システムのマニュアル作成をし、令和3年3月から運用開始した。

9) 改善活動

- ①病院機能評価指摘事項の改善に向け、各部署の目標・内容を明確にし、継続した取り組みをし、結果をサイボウズに掲載し、まとめを配布した。
- ②各部署で「5S活動(整理、整頓、清潔、清掃、躰)」の取り組みを継続実施し、まとめを配布した。
- ③指差し呼称他者評価を2回（年間）実施し、結果をサイボウズに掲載し、まとめを配布した。
- ④TeamSTEPPS研修継続と部署編の導入し、ノンテクニカルスキル向上活動を実施した。
- ⑤認定制度の研修を継続し6回開催した。認定人数は、PICC研修10名、CVC講習会22名であった。

PICC講習会は、院内採用の2社の講習会の開催とした。

10) 県立病院医療安全管理者会議

COVID-19感染拡大に伴い、拡大会議は中止し、Zoom会議で医療安全管理者会議を9月に開催した。その後、定期開催は12月、2月の開催となった。会議の主な内容は、死亡事故報告、医療安全研修計画や開催方法・現状、各施設における医療安全の情報交換などであった。医療安全対策地域連携加算の実施状況や方法について情報共有した。

11) 東京都立小児総合医療センター「医療安全対策推進委員会」会議参加：3回

COVID-19感染拡大・緊急事態宣言等により参加回数は減少した。

12) 医療安全管理者研修への受講

継続している医療安全管理者研修を、医師1名受講した。

13) 薬学部実習生に医療安全の基礎としての「小児病院の特徴を踏まえ入院中の安全」を中心とした内容で講義を合計3回開催した。

14) 組織の医療安全文化調査の実施と今後の課題抽出

TeamSTEPPS研修会を平成24年度より導入し9年間が経過した。今年度は、COVID-19感染拡大により、院内感染防止をすると共に研修を実施することを検討し、部署別に開催することと

し「部署編」として継続した。

院内で発生した重大な事象の分析を実施し、調査委員会での報告や具体的な改善につなげている。

「医療における安全文化に関する調査」では、全体の偏差値 53.63 と 0.51 ポイント上昇した。

12 側面では、「部署内でのチームワーク」「上司の医療安全に対する態度や行動」は、192 施設中 1 位、「出来事の報告される」「エラー後のフィードバック」は、192 施設中 3 位であった。

毎年の調査結果から課題を抽出し、安全文化の向上に向け取り組みを継続している。

重大事象の発生後の分析、防止策の評価し、継続することで改善し、安全な医療の提供につながるように組織としての取り組みをしている。さらなる安全文化の醸成に努めていきたい。

(医療安全管理者 水村 こず枝)

2 医薬品安全管理責任者報告

医薬品安全管理責任者の立場から、医療安全検討小委員会(毎週)で医薬品に関するインシデント・アクシデント事例について情報共有を図り、必要な対応を行った。また医療安全ラウンド(毎月)に同行し、病棟内における医薬品の管理と適正使用の状況を確認し、改善が必要な事項について対応を指示した。

医療安全管理委員会(毎月)では、院内および調剤薬局からの疑義照会事例の集計・分析結果を報告し、事例の共有と対応を図ることで、潜在的なインシデント・アクシデント事例の減少に努めた。令和 2 年度における、院内の疑義照会件数は 947 件で、このうち投与量に関するものが 326 件(34.4%)、投与方法に関するものが 98 件(10.3%)、投与日数に関するものが 115 件(12.1%)であった。この他にも、小児病院に特徴的な事項として、複数の剤形や規格を採用している医薬品の選択に関するものが 123 件(13.0%)あった。また、急性期医療に特徴的な事項として、指示の変更によるオーダの重複に関するものは 122 件(13.0%)であった。

令和 2 年度における、院外処方箋の疑義照会件数は 426 件で、このうち投与量に関するものが 132 件(31.0%)、投与方法に関するものが 87 件(20.4%)であった。院内処方と比較すると、投与方法に関する事項の疑義照会の割合が 10 ポイント高かった。これは小児の服薬に関して、複雑な指示が多い事を反映しているものと思われる。

この他、6 月に新規採用看護師を対象とした医薬品の取り扱いに関する研修を実施したが、定例開催としている医薬品安全使用のための研修会については、新型コロナウイルス感染予防のために中止した。

(医薬品安全管理責任者 嶋崎 幸也)

3 医療機器安全管理責任者報告

令和 2 年度も医療法に基づき生命維持管理装置および保守が必要な医療機器の保守点検計画を策定した。年々膨らむ生命維持管理装置の保守費用に対し、保守内容を精査して保守費用削減に努めた。しかし、今年度は更新して数年が経過したことによりベットサイドモニタのバッテリーやセントラルモニタの HDD 劣化が目立つようになり、来年度以降に保守費用が増加すると思われる。

研修会および勉強会は働き方改革の影響もあり昨年度に比べ 35%減の 140 回の開催となった。参加者は 43%減、のべ 963 名であった。今後もテーマや開催方法の検討を行い効果的な開催を行ってきたい。

メーカーからの安全性情報、回収情報、インシデント事例に対し調査を行い院内への情報提供を行った。

(医療機器安全管理責任者 古山 義明)

表 1 令和 2 年度 医療安全管理研修

	日 時	テーマ	主催
1	4 月 2 日	新採用者オリエンテーション「医療安全 1」	医療安全管理室
2	5 月 26 日 6 月 26 日 9 月 4 日 10 月 27 日	テクニカルスキル領域別研修会 CVC 講習会 (医師対象)	医療安全管理室
3	5 月 28 日 7 月 9 日	PICC 研修会 (医師対象)	
4	4 月 1 日	医療安全研修 テーマ「誤接続防止コネクタの導入と適正な使用方法」ISO 導入	薬剤部 医療安全管理室
5	4 月 2 日	医療安全管理研修会 「TeamSTEPPS 基礎編」 1 回	医療安全管理室
6	5 月～11 月	医療安全管理研修会 「TeamSTEPPS 部署編」 合計 65 回	医療安全管理室
7	5 月～12 月	e-ラーニング研修 テーマ①「安全のための改善活動～私たちができる医療安全～」 テーマ②「現場でできるニューマンエラー対策」 受講者数：741 名	医療安全管理室

*医療機能評価機構医療安全情報 12 回：各部署へ配布